

2000年以降の「カワイイファッション」の語が表す意味と社会的評価

Meaning and social evaluation of the term “kawaii fashion” since 2000

佐久間 桃花

Momoka Sakuma

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード：服飾文化史，カワイイファッション，ポップカルチャー

Key words : History of clothing culture, Kawaii Fashion, Pop Culture

1. 研究目的

「カワイイファッション」は、日本文化として海外からの関心も高く、世界から認められているファッションスタイルである。2009年に日本の文化政策の一環として、外務省が「ポップカルチャー発信使（通称：カワイイ大使）」を制定したことで社会的認知度も高まった。

先行研究では、カワイイカルチャーの一部として「カワイイファッション」を取り上げているものが多く、研究対象も特定のスタイルに限定されている。また、「カワイイファッション」という語の定義は曖昧で、何を指し示すか明確化されていない。

本研究では2000年代以降から2023年までの新聞、雑誌等を用いて、「カワイイファッション」という語が表す意味や範囲、社会的受容の変化や、その影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究実施内容

本研究では、大妻女子大学図書館データベースに保存されている読売新聞、日本経済新聞、朝日新聞、毎日新聞の記事と、国立国会図書館に所蔵されている原宿ストリートファッションを扱った雑誌『KERA』（1998～2017年）を資料として調査を行った。

新聞は一般的な社会評価を知る為の資料として使用した。データベースを用いて2000年～2023年までの「カワイイファッション」及びその関連語（「カワイイ文化」「Kawaii」「カワイイカルチャー」「原宿カワイイ」「原宿系ファッション」）の記事を450点抽出し、語が表す意味や社会的イメージの変遷についてExcelにまとめた。また、対象語彙の出現時期と個数の累積グラフを作成した。

雑誌は着用者の視点から考察する為に使用し、「カワイイファッション」の語が表す意味や使用方法、使用シーンの変遷に着目してExcelに整理した。2004年10月号～2005年9月号と2006年～2017年の1月号、計24冊を資料とした。

これらのデータを基に、「カワイイファッションの語」に関する分析と『カワイイファッション』のファッションスタイルに関する分析を行った。

新聞記事から「カワイイファッション」及び関連語の出現時期と意味の変化を分析したところ、1997年に初めて「カワイイ文化」の語が出現し、2004年には「Kawaii」が使用されていたことが分かった。「カワイイファッション」の語は2008～2018年までの10年間のみ使用されていた。続いて2009年には「原宿系ファッション」、2010年には「カワイイカルチャー」、2012年には「原宿カワイイ」の語を確認することが出来た（図1）。「カワイイファッション」の語は2018年以降見られなくなったが、同年の日本経済新聞の記事では「カワイイファッション」の海外需要が増加していること¹、また2022年の同紙では「カワイイカルチャーは今も進化している」という内容が記載されていた²。これらの記事から、2018年以降は「カワイイファッション」という語は使用されなくなるが、「カワイイカルチャー」としては継続し、「カワイイファッション」以外の言葉が代替えとして使用されるようになったことが考えられる。累積グラフを分析すると、2011年から語の出現率が高くなることや、2013年に全ての語が出現することも分かった（図2）。また、2009年には「奇抜、悪趣味といわれてきた若者の街着が今や『カワイイ！』という言葉で価値変換。一躍若者の心をとりにする人気商品群となり、日本経済の救世主、

世界に通じる日本文化とまでいわれる。」という記事が見られたⁱⁱⁱ。これらのことから「カワイイ大使」が制定された2009年頃を境に「カワイイ」への注目度が高まり、頻繁に使用されるようになったことが分かる。また、同時期に「カワイイ」の語の意味が変化し、若者のストリートファッションを総称する語として使用されはじめ、社会でも受け入れられたことが確認できる。

続いて、雑誌記事から「カワイイファッション」及び関連語の出現時期と意味の変化を追った(図3)。「カワイイファッション」という語は見られなかったが、「カワイイ」という語は2004年から常に出現していた。この語に関しては「かわいい」「カワイイ」の表記の違いによる使い分けは確認できなかった。また、「カワイイ」よりも「ラブリー」「キュート」「ロマンティック」「メルヘン」の語が多く見られた。「ロマンティック」「メルヘン」の語は、徐々に減少し、2012年頃から「女の子」「乙女度」という言葉が使われ始めることも明らかとなった。

次に語の使用例から表す意味についての考察を行った。2005年には、「4パターンの“かわいい”を直球で提案!」という文章が見られたことから、「かわいい」が形容詞としてではなく、独立したファッションカテゴリーを表す1つの用語として使用されている事が伺えた^{iv}。また、2007年には『KERA』に掲載されているスタイルが海外でも注目を集めている」といった主旨の記事が掲載されていた^v。「カワイイファッション」という表現ではなかったが、ファッションスタイルが海外に進出している様子を確認することが出来た。2016年には、歌手「あのちゃん」等のインターネットで注目を集める女性たちの特集記事において「自撮りでかわいいを発信する」と記載されていた。この記事からも「かわいい」が形容詞ではなく、1つの用語として使用されていることが伺える。また、以前は使用されていなかった「サブカル」等の言葉と一緒に使用されており、SNSの普及によって「かわいい」が示す内容に変化が現れたと考えられる^{vi}。

続いて、ファッションスタイルに着目して分析を行った。新聞記事においては「カワイイファッション」が示すファッションスタイルとして「ロリータ」「ゴスロリ」「デコラ」「制服」が多く見られた。またタレント・有名人の「きゃりーぱみゅぱみゅ」「増田セバスチャン」「内藤ルネ」に關す



図1. 新聞記事にみる「カワイイファッション」及び関連語の出現時期

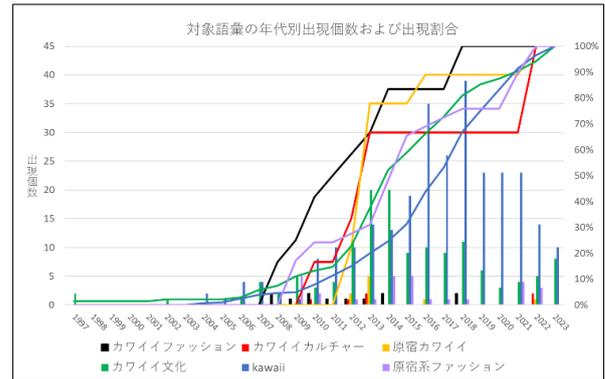


図2. 新聞記事にみる対象語彙の出現時期と個数の累積グラフ



図3. 雑誌記事にみる「カワイイファッション」及び関連語の出現時期

る記事も多く確認することが出来た。

雑誌では、前述の通り「カワイイファッション」という語が見られなかった為、「かわいい」「カワイイ」と形容されるスタイルについて分析を行った。確認できたスタイルは「痛カワイイ」「ホラーカワイイ」「こわカワイイ」(図5)「カワっこいい」(図6)等が挙げられる。このことから、リボンやピンク色等の「女の子らしい」要素を含むスタイルだけでなく、目玉や血等のグロテスクなアイテム、黒、暗色の要素も「カワイイ」と表現されていることが分かった。また、特定のスタイルや性別に限定されていないことも明らかとなった。新聞記事の紹介内容と比較すると、雑誌で掲載されるスタイルの方が多様で幅広いことも明確になった。



図 5. 「こわカワイイ」
(2011 年)



図 6. 「カワかつこいい」
(2008 年)

3. まとめと今後の課題

「カワイイファッション」の語に関して、新聞には 1997 年頃から「カワイイ」に関連する語が現れ、2018 年頃までに出現のピークを迎えたことがわかった。また、2018 年以降の記事には「カワイイファッション」の語は見られなくなったが、その他の言葉が代替えとして使用されていく様子を確認することもできた。また雑誌からは、カタカ

ナで表記する「カワイイ」とひらがなで表す「かわいい」の意味の違い、明確な定義は見られなかったが、2004 年頃から「カワイイ」が 1 つのファッションカテゴリーを示す言葉として使用され始めた様子を伺うことが出来た。

「カワイイファッション」のスタイルに関して、新聞では「ロリータファッション」「ゴスロリ」「デコラ」「制服」等の派手で奇抜、且つわかりやすい特定のスタイルのみ取り上げていたことが分かった。これに対して雑誌では、特定のスタイルに限定せず、多様なファッションスタイルに対して「かわいい」の語が使用されていた。

これらのことから、「カワイイファッション」の語を社会的メディアである新聞が 2008 年頃に取上げたことで一般化したことが考えられる。また、新聞と雑誌では「カワイイ」の語が指し示す範囲及び対象が異なる事が分かった。

今後は対象語彙を広げながら資料調査を進め、「カワイイファッション」の語の代替えや示される範囲、ファッションスタイルの変化、現在の「カワイイファッション」とは何か、ということを語の出現率や社会動向と照らし合わせながら明らかにしていく。

ⁱ 「高円寺だってカワイイ！——自由なおしゃれに世界注目 (オフ)」日本経済新聞, 夕刊, 2018 年 3 月 17 日, 4 ページ

ⁱⁱ 「NEO デコラ 原宿で復活, 90 年代文化, 進化してカワイイ, 100 アイテムで全身デコる」日本経済新聞, 2022 年 12 月 9 日, 14 ページ

ⁱⁱⁱ 「NHK: 『東京カワイイ☆TV』 若者ファッション

活写 カワイイ文化, パリで発信」毎日新聞, 東京夕刊, 2009 年 7 月 23 日, 5 ページ

^{iv} 『KERA』株式会社ジェイ・インターナショナル, 2005 年 4 月, 24 ページ

^v 同上, 2007 年 1 月, 41 ページ

^{vi} 同上, 2016 年 1 月, 42 ページ